

アジアを学ぶ

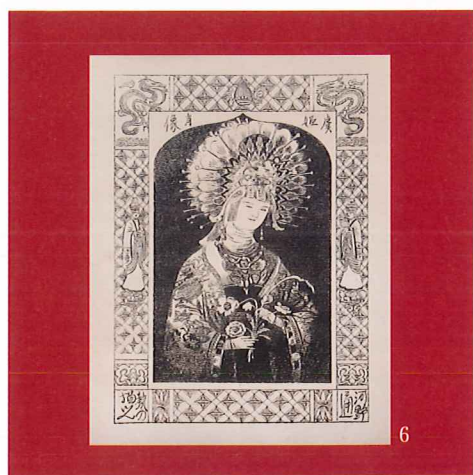
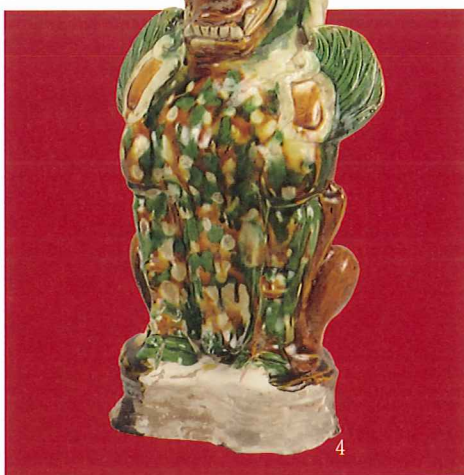
— 近代学習院の教育から

学習院大学史料館展示室

(北2号館1階)

入場無料

【主催】 学習院大学
【企画】 学習院大学史料館
【運営】 学習院大学学長付国際研究交流オフィス
【共催】 東洋文庫・永青文庫
【協力】 学習院アーカイブズ・学習院大学図書館・学習院大学東洋文化研究所



平成 25 年
10 月 5 日(土)
▼
12 月 21 日(土)

平日・土曜 10:00 ~ 17:00
日曜・祝日、10 月 17 日(木) 閉室



学

学習院大学史料館・永青文庫・東洋文庫の3館が連携し、「東洋学の歩いた道」を共通テーマとして、各館所蔵品による展覧会を開催します。

白鳥庫吉担当の「東洋諸国の歴史」が学習院高等学科に開設されたのは明治23年(1890)のこと。日本の東洋史教育はここから始まりました。授業では「唐三彩鎮墓獸俑」のような考古資料や鉤物標本、家屋模型、ガラス乾板、絵葉書等の実物教材が使用され、実地研修としてアジアへの修学旅行もおこなわれました。学習院の展示では、教育とその受容をテーマに東洋学の歩いた道を振り返ります。



13



14

I 東洋学事始 白鳥庫吉・近衛篤磨

白鳥庫吉が「東洋諸国の歴史」(東洋史)を受け持っていた頃、当時の学習院長であった近衛篤磨は外交官養成のための大学別科を開設し、同32年には清国(中国)からの最初の留学生を受け入れます。近衛は所蔵する漢籍(陽明文庫)などを学習院に提供し、学生の勉学のために用いました。白鳥と近衛の二人が学習院における東洋学教育草創期の立役者でした。ここでは白鳥と近衛の関連資料から学習院の東洋史教育のはじまりと授業風景に迫ります。

II 百聞ハ一見ニ如カズ 学生達の受容

実物教材による授業を受けた学生達は、その目を海外へ向け、「百聞ハ一見ニ如カズ」とばかりに修学旅行や個人旅行を行いました。また実際には海外へ赴かなかった学生達もアジアへ思いを馳せたのです。そして、その体験や思いは様々な形で結実していきました—外交官になるもの、自ら標本を収集するもの、研究者となるもの。また「白樺派」のアジアへの眼差しもこの場で育まれていったのです。卒業後の学生達の寄贈品や作品から、彼らの東洋学教育の受容とその後の軌跡を辿ります。

ギャラリートークのご案内

*毎週土曜日 12:00 学習院大学史料館展示室 *申し込み不要

11月30日 満洲へのまなざし—鉱業と農業からみる日本の開発

学習院大学 PD 共同研究員 湯川真樹江

12月7日・14日 旧制学習院の教育とその受容

学習院大学史料館助教 鎌田純子

12月21日 「アジアを学ぶ」に学ぶ

学習院大学学長付国際研究交流オフィス教授 村松弘一

連携展示のご案内

永青文庫

秋季展示「古代中国の名宝—細川護立と東洋学」

10月5日(土)~12月8日(日)

【開館時間】10:00~16:30(入館は16:00まで)

【休館日】毎週月曜日(祝日の場合は開館、翌火曜日が休館)

【入館料】

一般 800 円(700 円)、シニア
(70 歳以上) 600 円(500 円)
大学・高校生 400 円、中学生以下
無料

※() 内は 10 名以上の団体料金
<http://www.eiseibunko.com>

東洋文庫

東洋文庫ミュージアム企画展示「マルコ・ポーロとシルクロード世界遺産の旅—西洋生まれの東洋学」

8月7日(火)~12月26日(木)

【開館時間】10:00~20:00(入館は19:30まで)

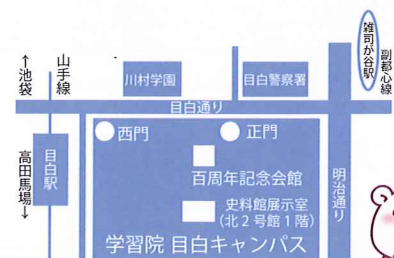
【休館日】毎週火曜日

【入館料】

一般 880 円、65 歳以上 780 円、
大学生 680 円、中・高校生 580 円、
小学生 280 円 ほか各種割引あり
<http://www.toyo-bunko.or.jp/museum/>

バーチャルミュージアム

会場にタッチパネルを設置しました。学習院の学生達が修学旅行で訪れたアジア各地の当時と現在の様子を、写真で自由にご覧頂けます。



アクセス

JR 山手線目白駅下車...徒歩1分

東京メトロ副都心線有明駅が谷町下車...徒歩7分

学習院大学史料館

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

Tel. 03-3986-0221 内線 6569

Fax.03-5992-9219

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua/>

